

Ⅲ 教育委員会施策の 点検・評価

第3次とよおか教育プラン
平成28年度実践計画
検証総括シート

第3次とよおか教育プラン平成28年度実践計画の検証について

1 実施方法

平成28年度実践計画に定められている指標について、年度途中において学校現場及び各担当課による自己検証のほか、検証委員会による外部検証を行うとともに、年度末において教育委員会による最終検証を行った。

2 検証結果の示し方

検証結果は、2つの基本方針で定められた9つの基本的方向ごとに「検証総括シート」を作成し、各々で設定された指標及び施策・取組の検証、中間外部検証における意見を取りまとめ、また、中間外部検証結果及び次年度実践計画策定作業を踏まえ、年度末における最終検証を取りまとめた。

3 表記・記号の説明

(1) 指標項目について

ア 「■」印の指標項目

全国学力・学習状況調査（毎年4月20日頃実施・8月下旬結果公表）の結果の数値を使用。従って、実施年度の数値は前年度の取組が反映すると捉えられるが、実施年度の結果を目標値に対応させて評価することとする。

イ 「□」印の指標項目

全国学力・学習状況調査以外の全国調査や各担当課による独自調査、取組による結果の数値を使用。

(2) 指標数値について

ア H27現状値

- ・原則は平成27年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記する。当該年度を〔 〕内に表記する。
- ・H27現状値のうち、（ ）内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を示す。

イ H28目標値

- ・実践計画策定段階で設定した目標値を表す。
- ・H28目標値のうち、（ ）内は対前年差を表す。

ウ H28指標の実現状況

- ・原則は平成28年度の実績値を表記するが、取組によっては前年度の実績値を表記するものがある。この場合は〔 〕内に当該年度を表記する。
- ・H28指標の実現状況のうち、（ ）内は対目標差を、「○」印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

(3) 担当課及び検証委員会による検証結果の評価記号

担当課自己検証（中間・最終）		検証委員会外部検証	
S	取組終了（目標の達成等により終了）	○	妥当
A	継続実施（拡充・現行方法による継続実施）	△	疑義あり
B	改善実施（取組の改善・見直しによる継続実施）	—	評価不能
C	取組廃止（取組の必要性等から廃止）		
—	未着手（未着手のため、取組計画段階を検証）		

4 中間外部検証における検証委員会意見総括

平成27年度から新たな計画に基づき教育施策が実施されており、平成28年度で2年目を迎えました。平成28年度は現計画の開始から1年間以上が経過し、これまでの取組が子どもたちにどのような変化をもたらしたのかが数値として示されています。検証委員会では、子どもたちの姿をしっかりと捉えつつ、子どもたちを取り巻く教育環境に広く目を配らせながら検証を行いました。

検証委員会の検証結果については、「検証総括シート」に記載のとおりであり、概ね担当課検証の結果は妥当であると評価しました。また、今後の施策推進における重点課題や取組の実践における方向性など、検証委員会としての意見についても提示しています。

なお、検証を進める中で、昨年度も指摘した項目ではありますが、同一の取組が複数の施策に位置付けられていることについては、できるだけ一方に集約し、焦点化したほうが具体的で分かりやすく検証できるのではないかと考えます。もちろん、取組によっては、双方の施策において取り組む必要があるものや所管課が異なるものもありますが、それらについては、それぞれ取組内容を絞って表記し、焦点化するなど、次年度実践計画の策定において施策・取組を精査していただきたいと考えます。

次年度の実践計画の策定においては、今回の中間外部検証の結果をしっかりと反映させていただくとともに、取組内容を十分に精査し検討を重ねていただき、実践計画を策定されますようお願いいたします。

第3次とよおか教育プラン 平成28年度実践計画 施策・取組一覧

基本方針1 夢実現力を育む教育の推進		担当課
基本的方向1 「あたまの力」の育成 … P. 22		
施策⑦ 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上策		
1	1 市及び各小・中学校の分析結果と対応策の作成	こども教育課
2	2 「活用する力」を高める授業研究及び「授業研究の充実」に向けた研究の推進	
3	3 読書の質の向上に向けた豊岡市推薦図書一覧の活用	
4	4 「チャレンジ！フイフティ」における認定証の発行と学校表彰の実施による読書活動の推進	
5	5 放課後等における補充学習の実施	
6	6 きめ細かな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	
7	7 新学習システムによる指導体制や指導方法の工夫・改善	
8	8 コミュニケーション教育の推進 <拡>	
施策⑧ 小中連携教育及び小中一貫教育を核とした連携教育		
9	1 豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりのプラン」の実施に向けた確かな準備の推進 <新>	こども教育課
10	2 国語科9年間カリキュラムの研究と更新	
11	3 小学校区を基本単位とした「保幼小連携教育」の推進	
12	4 小規模校園の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	
施策⑨ 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のための家庭との緊密な連携		
13	1 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	こども教育課
14	2 家庭での読書習慣の確立	
基本的方向2 「こころの力」の育成 … P. 26		
施策⑦ 発達段階に応じた「夢実現力を育む」キャリア教育		
15	1 組織的・系統的なキャリア教育の推進	こども教育課
16	2 キャリアプランリング能力の育成	
17	3 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援 <関連>	
18	4 生徒一人一人の能力・適正を踏まえた進路指導の実施	
*「夢実現力を育む」文化・スポーツ振興事業		
19	5 美術展の開催	文化振興課
20	6 スポーツ教室の開催	スポーツ振興課
施策⑧ 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動		
21	1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	こども教育課
22	2 異年齢集団を活用した取組の推進	
23	3 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	
24	4 五感を使って地域の自然にふれる「ふるさと実感・環境体験事業」、地域の特性を活かした達成感のある「自然学校」の推進	
25	5 地域に学ぶ「体験的ふるさと教育」の推進 <関連>	
26	6 地域との連携を図った「トライやる・ウィーク」事業の充実 <関連>	
*「ふるさと教育につながる」文化振興事業		
27	7 出石永楽館狂言教室の開催	文化振興課
施策⑨ 学校教育活動全体を通じた道徳教育		
28	1 「豊岡市地域道徳教材」と「兵庫版道徳教育副読本」の活用 <関連>	こども教育課
29	2 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	
30	3 地域の人材活用の推進	
施策⑩ 生命の尊厳を基盤とした人権教育		
31	1 人権尊重に基づいた学校文化構築に向けての研修の充実	こども教育課
32	2 いじめ、虐待、新たな課題(DV、デートDV、ネットによる人権侵害等)に対応した人権教育の充実	
33	3 人権尊重を基盤とした社会をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	
施策⑪ コウトリを核にした環境教育		
34	1 地域の実態に応じた環境教育の充実	こども教育課
35	2 『いのち』について学ぶ「生きもの共生の日」(5月20日)の取組の充実	教育総務課
36	3 環境保護・省資源化に向けた節電活動の実践	
施策⑫ グローバル化に対応した教育		
37	1 ネットワーク上の個人情報適切な保護・管理及び著作権の尊重等、情報モラルに係る研修の完全実施	こども教育課
38	2 学校・地域で学ぶことのできる文化や伝統を大切にす活動の推進	
39	3 英語活動の充実 <拡>	
40	4 大韓民国・アメリカ合衆国・モンゴル国との友好親善交流の実施	こども教育課/文化振興課
41	5 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭の開催	生涯学習課

	施策④ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育	
42	1 関係機関・地域と連携した防災訓練の実施	こども教育課
43	2 災害対策マニュアルの不断の見直し	
44	3 東日本大震災を踏まえた「5.23」「10.20」「1.17」メモリアルデー防災・減災授業の実施	
	施策⑤ 豊かな人間関係の構築	
45	1 子どもと心でつながる市民運動の推進 <拡><関連>	生涯学習課
46	2 とよおか家族の日(10.8)及びとよおか家族の月間(10月)の取組強化 <関連>	
基本的方向3 「からだの力」の育成		… P. 32
	施策⑥ 全国体力・運動能力等調査の結果等を踏まえた体力・運動能力の向上	
47	1 「豊岡版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実 <拡>	こども教育課
48	2 新体力テストを活用した体力づくり運動の実施と体育・スポーツ活動の推進	
49	3 各種体育大会の充実	
	施策⑦ 望ましい食習慣の形成を図る食育	
50	1 家庭や地域と連携した食に関する教育の推進 「食育の日」(毎月19日)、「弁当の日」の推進	こども教育課
51	2 食に関する指導の充実	
	施策⑧ 心身の健康課題に適切に対応する健康教育	
52	1 発達段階に応じた健康教育の推進	こども教育課
53	2 関係機関と連携した各種講習会の推進	
54	3 規則正しい生活習慣の確立	
基本的方向4 「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成		… P. 36
	施策⑨ 健康な体をつくる運動遊び	
55	1 幼児期における運動遊びの推進	こども育成課
56	2 食育の推進	
57	3 親子ふれあい活動の推進	
	施策⑩ 基本的な生活習慣の確立	
58	1 生活リズムの定着の推進	こども育成課
59	2 幼児期の基本的な生活習慣の定着	
	施策⑪ 身近な環境への好奇心や探究心の育成	
60	1 自然体験の充実	こども育成課
61	2 動物の飼育や野菜などの栽培活動の推進	
62	3 「自然体験マップ」の活用	
	施策⑫ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成	
63	1 絵本の読み聞かせの推進	こども育成課
64	2 話す力・聞く力の定着	
65	3 感じたことや考えたことを表現する力の育成	
	施策⑬ 様々な体験活動	
66	1 様々な体験活動の積み重ねと社会的ルールの育成	こども育成課
67	2 就学前の教育・保育計画「スタンダード・カリキュラム」や「すくすくプログラム-5つの育てたいカー-」を基本とした就学前教育の充実	
68	3 身近な人(地域の在宅児や高齢者)と関わる力の育成	
69	4 英語への興味・関心を育む保育の推進 <拡>	
基本的方向5 特別支援教育の充実		… P. 39
	施策⑭ 発達特性の理解と早期からの一貫した支援	
70	1 豊岡市こども支援センターの機能の充実 <関連>	こども教育課
71	2 スーパーバイザー支援事業	
72	3 校内外支援体制の充実	
73	4 個別の教育支援計画の作成・活用の促進	
74	5 個別の指導計画の作成・活用の促進	
75	6 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	
76	7 就学指導のための教育相談の充実(校内外及び各関係機関) <関連>	
77	8 卒業後までを見通した一貫した支援の充実	
78	9 スクールカウンセラーによる相談支援事業の実施 <関連>	
79	10 介助員並びにスクールアシスタントの効果的な活用	
	施策⑮ 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習	
80	1 交流及び共同学習の推進	こども教育課
81	2 地域における交流会の実施	
	施策⑯ 保護者支援	
82	1 保育園等巡回相談の実施	こども育成課
83	2 子育てに関する相談を通して支援が必要な園児児童生徒の早期発見と保護者支援	
84	3 豊岡市こども支援センターの機能の充実 <関連>	
85	4 就学指導のための教育相談の充実(校内外及び各関係機関) <関連>	

基本方針2 子どもたちの学びを支える仕組みの確立

基本的方向1 学校園の組織力及び教職員の資質能力の向上

… P. 43

施策⑦ 校園長のリーダーシップのもと教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にかかしていく協働体制の確立		
86	1 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進 <拡>	こども教育課
87	2 子どもと向き合う時間の確保	
88	3 学校評価の推進	
施策⑧ いじめや暴力行為等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対策		
89	1 いじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止、早期発見・早期対応における組織的な対応の充実 <拡>	こども教育課
90	2 「不登校アクションプラン」の積極的な推進 <拡>	
91	3 不登校対策指導補助教員の配置	
92	4 不登校児童生徒の学校復帰の取組の充実	
93	5 スクールカウンセラーによる相談支援事業の実施 <関連>	
94	6 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	
95	7 心理検査を活用した生徒指導の充実	
96	8 情報モラル研修会の実施	
施策⑨ 授業力や多様な教育課題への対応力等教職員の資質と実践的指導力の向上		
97	1 授業力づくりと学級づくりの一体化の質的向上	こども教育課
98	2 「いじめ対応マニュアル」「NO！体罰(改訂版)」等を活用した校内研修の実施	
99	3 民間企業等における社会体験を行う「先生のトライやる」の実施	
100	4 トワイライト教師塾の実施	
101	5 選択制研修講座の実施	
102	6 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	
103	7 児童生徒及び教職員のICT活用能力の向上	

基本的方向2 安全・安心な教育環境の整備

… P. 46

施策⑦ 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実		
104	1 老朽プールの整備	教育総務課
105	2 学校園施設、設備、遊具等の定期的な安全点検の実施及び改修の実施	
106	3 ICT環境の整備 <拡>	
107	4 吊り天井等落下防止対策の推進	
108	5 地産地消の推進と安全・安心な学校給食の提供	
109	6 食物アレルギーへの取組の推進	こども教育課
110	7 通学(園)路の安全点検と指導の充実及び関係機関・保護者・地域との連携強化	
111	8 防犯ブザーの小学1年生への配布	
112	9 通学(園)手段の確保	こども育成課
113	10 幼児教育・保育施設の整備	
施策⑧ 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための就学支援		
114	1 要保護・準要保護児童生徒への就学援助費の支給	こども教育課
115	2 特別支援学級在籍児童生徒への就学奨励費の支給	
116	3 就園奨励事業(実費徴収に係る補足給付事業)の実施	こども育成課
117	4 多子世帯・ひとり親世帯の保育料負担軽減 <新>	

基本的方向3 家庭の教育力の向上

… P. 49

施策⑦ 親が親として成長するための学びの機会の提供		
118	1 はばたきメッセージを活用した家庭教育のあり方の充実	こども教育課
119	2 PTA活動の充実	
120	3 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	こども育成課
121	4 親子が交流できる機会の充実	
施策⑧ 関係機関の連携による家庭教育への支援		
122	1 子育てに関する相談の充実	こども育成課
123	2 子育てに関する情報発信	
124	3 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	
施策⑨ 家庭における子どもが伸びる習慣づくりの実践		
125	1 すくすくメッセージや紙芝居「めらとにんじやのしゅぎょう」を活用した乳幼児期の生活リズムの定着	こども育成課
126	2 「運動遊びパンフレット」「おでかけマップ」により、家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	

施策⑦ 地域が主体的に学校運営に参画し、効果的な学校園支援活動を行うこと等地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり	
127	1 安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援 <拡>
128	2 学校支援地域本部事業の推進
129	3 土曜チャレンジ学習事業の推進 <拡>
130	4 子どもと心でつながる市民運動の推進 <関連>
131	5 青少年健全育成推進及び青少年補導委員の連携・活動の充実 <拡>
132	6 とよおか家族の日(10.8)及びとよおか家族の月間(10月)の取組強化 <関連>
133	7 「家読」の推進
134	8 子どもの野生復帰大作戦の展開
135	9 仕事と子育ての両立支援
施策⑧ 学校園からの積極的な情報発信を踏まえた地域と学校園の緊密な連携	
136	1 学校・家庭・地域の連携強化 <拡>
137	2 地域や警察等環形機関と一体となった防犯訓練の全校実施
138	3 「子どもを守る110番の家」等の避難場所の周知など地域安全マップの定期的確認
139	4 開かれた学校づくりの推進
140	5 学校評議員制度を活かした学校園づくりの推進
141	6 学校関係者評価の実施と結果の公表
142	7 幼稚園・保育園・認定こども園の園児と在宅親子との交流

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向1	「あたまの力」の育成
	子どもたちに、基礎的・基本的な知識・技能を習得、活用し、自らを高め学び続ける力を身に付けさせることが重要である。 このため、㊶全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上策、㊷小中連携教育及び小中一貫教育を核とした連携教育、㊸家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のための家庭との緊密な連携等に取り組む。

〔指標の検証〕

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
■「全国学力・学習状況調査」のA問題における正答率が40%以下の児童生徒の割合	小国A 14.1% (-5.1) 小算A 7.4% (-4.4) 中国A 5.0% (-2.0) 中数A 13.7% (-4.7)	小国A 9% 小算A 3% 中国A 3% 中数A 9%	小国A 8.5% (+0.5)○ 小算A 5.8% (-2.8)○ 中国A 3.9% (-0.9)○ 中数A 18.1% (-9.1)
■国語、算数、数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合	小国 62.7% (-0.3)○ 小算 66.3% (+0.3)○ 中国 53.3% (-0.7)○ 中数 48.7% (-12.3)○	小国 63% 小算 68% (+2) 中国 54% 中数 61%	小国 56.6% (-6.4) 小算 64.3% (-3.7) 中国 47.9% (-6.1) 中数 53.5% (-7.5)○
■普段の授業で、はじめに授業の目標(めあて・ねらい)が示されていると思う児童生徒の割合	小 87.6% (+1.6)○ 中 71.7% (+0.7)○	小 90% (+4) 中 74% (+3)	小 90.8% (+0.8)○ 中 91.5% (+17.5)○
■普段の授業で、最後に学習内容を振り返る活動をよく行っていると思う児童生徒の割合	小 78.0% (-1.0)○ 中 52.5% (+4.5)○	小 79% 中 55% (+7)	小 80.9% (+1.9)○ 中 65.4% (+10.4)○
■話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合	小 67.4% (-0.6)○ 中 60.3% (-2.7)○	小 68% 中 63%	小 70.9% (+2.9)○ 中 62.2% (-0.8)○
■学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり全く読書をしない児童生徒の割合(教科書や参考書、漫画や雑誌除く)	小 16.9% (-1.9)○ 中 31.6% (-5.6)○	小 15% 中 26%	小 17.2% (-2.2) 中 34.0% (-8.0)
■家庭など学校での授業以外で平日に学習時間が30分未満の児童生徒の割合(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)	小 5.7% (-0.7)○ 中 8.1% (-3.1)○	小 5% 中 5%	小 5.7% (-0.7) 中 8.9% (-3.9)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S	取組終了 (目標の達成等により終了)
	A	継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B	改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C	取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	—	未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○	妥当
	△	疑義あり
	—	評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 全国学力・学習状況調査の結果等を踏まえた学力向上策	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 市及び各小・中学校の分析結果と対応策の作成	A	○	A	子ども教育課
2 「活用する力」を高める授業研究及び「授業研究の充実」に向けた研究の推進	A	○	B	
3 読書の質の向上に向けた豊岡市推薦図書一覧の活用	A	○	A	
4 「チャレンジ! フィフティ」における認定証の発行と学校表彰の実施による読書活動の推進	A	○	A	
5 放課後等における補充学習の実施	A	○	A	
6 きめ細やかな指導の充実を図るための指導補助教員の配置	A	○	A	
7 新学習システムによる指導体制や指導方法の工夫・改善	A	○	A	
8 コミュニケーション教育の推進	A	○	A	

(施策における取組の総括: 担当課中間検証)

指定指標の【①「全国学力・学習状況調査」のA問題における正答率が40%以下の児童生徒の割合】において、小国語A・小算数A・中国語AでH27数値より上回る結果となった。しかし、中数学Aでは、下回る結果となった。改善に向け、各校には「夢実現力行動プラン2016」の9月分析と改善事項の内容に、A問題40%以下の児童生徒の児童生徒がどのような学習状況なのかを重点的に分析し、授業改善事項として具体的な実践化を図るよう依頼した。この指標を重視していくことが今後も必要であると考えている。

また、③授業の目標の表示、④振り返り活動、では小・中学校ともに前年度を上回る結果となった。しかし、②国語、算数・数学の勉強が好きだと思っている児童生徒の割合においては、中学校の数学を除き前年度を下回る結果となった。平成26年10月から取組を始めた「授業における5つの『徹底・継続』実践事項」が各校において定着しその効果が表れ始めているものと考えられるが、国語及び算数・数学の学習が好きと答えられる児童生徒を育てていくことにもつながるように、5つの実践事項の精度を高めていく必要がある。

施策 ㉘ 小中連携教育及び小中一貫教育を核とした連携教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりのりプラン」の実施に向けた確かな準備の推進	S	○	S	子ども教育課
2 国語科9年間のカリキュラムの研究と更新	A	○	A	
3 小学校区を基本単位とした「保幼小連携教育」の推進	A	○	A	
4 小規模校園の教育課題に対応するための「小小連携教育」の推進	A	○	A	

(施策における取組の総括: 担当課中間検証)

平成29年度から全市において行う小中一貫教育「豊岡こうのとりのりプラン」の実施に向けた確かな準備として、8月10日には全教職員研修会を開催した。また、各一貫ブロックでは、連携教育で培ってきた経験知を磨き上げ、実効性を高めるための取組の協議と内容の吟味を行う推進委員会を継続的に行っている。豊岡市の教育課題の改善を図るための一貫教育への移行であるということを常に意識し、次年度の実施に確実につなぐ仕上げを行いたい。

施策 ㉙ 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立のための家庭との緊密な連携	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立	A	○	A	子ども教育課
2 家庭での読書習慣の確立	A	○	A	

(施策における取組の総括: 担当課中間検証)

小学校長が入学1年前の保護者を対象に、幼稚園、保育園、認定子ども園に向き、「はばたきメッセージ」を活用して基本的な生活習慣、学習習慣の重要性を啓発している。平成29年度から始まる小中一貫教育の中でも、家庭との連携を図り、子ども達に育てたい生活習慣、学習習慣を共有しながら、各中学校区で取組をさらに充実させていく。家庭での読書週間の確立については、市立図書館、PTCA事業と連携し、講習会等を開催し、家庭での読書習慣定着に向け取り組んでいるところであるが、結果として9月時点ではマイナス評価となった。今後関係団体や家庭、PTA等と連携し、子どもたちに本を読む楽しさを感じさせ、家庭での読書習慣定着に向け取組を継続させていく。

施策⑦

学力向上策については、正答率40%以下の児童生徒に視点を当て、しっかりと分析を行い、その対応策を作成し、全市的に取り組む必要があると考える。学校現場では既に分析と対応策の検討を進められており、今後も結果分析に基づき学力向上に取り組んでいただきたい。

読書の質の向上については、中学校向けの推薦図書も改訂され、新しく推薦された図書もあるので、子どもたちに積極的に活用していただきたい。読書は、学力の向上にもつながるので、学校と家庭が連携して読書活動の習慣化を目指していただきたい。

読書活動推進のための「チャレンジ!フィフティ」は、児童生徒にとってはとても励みになっている取組であり、確実に学校に定着してきている。しかし、小学生に比べ中学生になると読む機会も少なくなり、温度差が出てきていると感じる。今一度各学校で取組を見直す必要があると考える。

また、読み聞かせボランティアの研修会は毎年開催され、今年度も2回程度開催されているが、読む環境も大事ではないかと考える。読み聞かせの研修会だけでなく、環境整備の研修会の開催も検討していただきたい。今後も読み聞かせボランティアの活動が停滞しないように、人員の確保とともに、学校現場など関係機関とのより強い連携をお願いしたい。

きめ細やかな指導の充実では、学習面、生活面において支援を要する子どもの増加に伴って複数教員の配置は一層重要となるため、拡充のための取組を継続していただきたい。

施策⑧

連携教育については、他市町に先駆け一貫教育に取り組む、次年度からスタートする豊岡市小中一貫教育「豊岡こうのとりプラン」に向けた準備がスムーズに行われていることは評価できる。次年度からはより教育の実効性を高めるため一貫教育にシフトしていくが、教育課程の構造的理解を踏まえた一貫性のある教育と教職員の指導力の向上を柱とした取組の充実をお願いしたい。

小学校区を基本単位とした「保幼小連携教育」の推進事業では、保護者の就労の都合で保育園から小学校に入学する子どもが増えている。小1プロブレム問題を予防するために、保育園、幼稚園、認定こども園と小学校の子ども同士あるいは教職員同士の交流のほか、幼児・児童の実態、指導方法について理解を深め、円滑に小学校での生活や学習に接続できるよう、連携した取組を推進していただきたい。

今後も「夢実現力行動プラン」の指定指標の取組を充実させることで、学力向上に取り組んでいきます。

今後も児童・生徒の読書の質の向上や読書活動の習慣化をめざし、推薦図書一覧の活用や家庭・地域との連携等に取り組んでいきます。

読書活動の習慣化を目指し、子どもの興味関心を高める工夫等、現在の取組の内容や方法に改善を加えながら、今後も取り組んでいきます。

支援を要する子どもは、今後も増加する傾向にあるため、拡充のための取組を継続していきます。

一貫教育の実効性を高めるため、授業実践を一層重視して取組を進めます。

連携の重要性を保幼小で共有し、「支援の要らない子は一人もいない」という理念によって、子どもの実態に対応した支援を引き継いでいきます。

施策⑦

家庭での基本的な生活習慣と学習習慣の確立については、言うまでもなく学校と家庭との連携が必要である。生活・学習・読書の習慣化に向け、学校だより等による啓発、PTAとの連携、「はばたきメッセージ」の活用を継続していただきたい。

なお、生活習慣の中でも、特に、就寝までの時間をいかに有効に使うかを就学前から身につけさせる必要があると考える。今年度「眠育」についての講演会もあり、既に取り組んでいる学校もあると聞いている。テレビやゲームに没頭するあまりに睡眠時間が短くなるような生活習慣を修正していくことは、学年が進むにつれて難しくなるため、家庭における早期の対応を期待する。

家庭での生活習慣及び学習習慣の確立について、各校の特色を生かしながら、引き続き家庭との連携を図っていきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちに、基礎的・基本的な知識・技能を習得、活用し、自らを高め学び続ける力を身に付けさせるため、授業実践を最重要視する小中一貫教育を展開していく。また、小中一貫教育と連動させる取組として、保幼小連携及び家庭との連携を確実に行う。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 2	「こころの力」の育成
	<p>子どもたちに、ふるさとの「ひと・もの・こと」に学びねばり強く挑戦する力、また、全ての命に共感する力及び人と肯定的に関わる基本的態度を身に付けさせることが重要である。</p> <p>このため、㊦発達段階に応じた「夢実現力を育む」キャリア教育、㊧子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動、㊨学校教育活動全体を通じた道徳教育、㊩生命の尊厳を基盤にした人権教育、㊪コウノトリを核にした環境教育、㊫グローバル化に対応した教育、㊬過去の災害の教訓を踏まえた防災教育、㊭豊かな人間関係の構築等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
■ 自分にはよいところがあると思う児童生徒の割合	小 80.4% (+1.4) ○ 中 67.3% (-2.7) ○	小 83% (+4) 中 69%	小 79.2% (-3.8) 中 67.8% (-1.2) ○
■ 将来の夢や目標を持っていない児童生徒の割合	小 14.5% (-3.5) 中 32.3% (-3.3)	小 11%以下 中 29%以下	小 17.5% (-6.5) 中 30.2% (-1.2) ○
■ 人の役に立つ人間になりたいと思う児童生徒の割合	小 95.4% (+0.4) ○ 中 94.1% (-0.9)	小・中 95%以上	小 95.0% (±0) 中 94.4% (-0.6) ○
□ 地域や社会をよくするために何をすべきか考えることがある児童生徒の割合 ※H28から独自調査指標	小 41.9% (+1.9) ○ 中 32.9% (+2.9) ○	小 45% (+5) 中 35% (+5)	小 70.9% (+25.9) ○ 中 59.2% (+24.2) ○
■ いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合	小 97.4% (-2.6) 中 94.2% (-5.8)	小・中 100%	小 96.1% (-3.9) 中 95.9% (-4.1) ○

- ・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。
- ・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 取組終了 (目標の達成等により終了)
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C 取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	— 未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	△ 疑義あり
	— 評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 発達段階に応じた「夢実現力を育む」キャリア教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 組織的・系統的なキャリア教育の推進	A	○	A	こども教育課
2 キャリアプランニング能力の育成	A	○	A	
3 多様な体験活動の実施によるキャリア形成への支援	A	○	A	
4 生徒一人一人の能力・適性を踏まえた進路指導の実施	A	○	A	
*「夢実現力を育む」文化・スポーツ振興事業				
5 美術展の開催	—	—	A	文化振興課
6 スポーツ教室の開催	A	○	A	スポーツ振興課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 中学校では「将来の夢や目標を持っていない児童生徒の割合」が改善している。キャリア教育の視点が体験活動等の取り組み方や日々の関わりに活かされるようになってきた一つの成果と考えられる。成果と課題を今一度整理し、計画に反映させ、全体計画と年間指導計画を仕上げるよう各校に求めていく。				

施策 ㉘ 子どもたちの発達段階に応じた体験を重視した活動	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 児童会・生徒会活動、リーダー研修会等の充実	A	○	A	こども教育課
2 異年齢集団を活用した取組の推進	A	○	A	
3 福祉体験活動やボランティア活動など社会体験の機会の充実	A	○	A	
4 五感を使って地域の自然にふれる「ふるさと実感・環境体験事業」、地域の特性を活かした達成感のある「自然学校」の推進	A	○	A	
5 地域に学ぶ「体験的ふるさと教育」の推進	A	○	A	
6 地域との連携を図った「トライやる・ウィーク」事業の充実	A	○	A	
*「ふるさと教育につながる」文化振興事業				
7 出石永楽館狂言教室の開催	A	○	A	文化振興課
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 命を大切に心・思いやりの心、人と肯定的に関わる態度等の育成をめざし、体験を重視した活動を進めている。そのことにより、本物に触れた感動、地域の「ひと・もの・こと」に触れた喜びを感じることができている。さらに、活動の事前・事後の活動を工夫し、自分の生き方・考え方を見つけなおしたり、自分の言葉でふるさとを語るができるよう、取組を継続していく。				

施策 ㉙ 学校教育活動全体を通じた道徳教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「豊岡市地域道徳教材」と「兵庫版道徳教育副読本」の活用	A	○	A	こども教育課
2 体験的・実践的な活動を通じた道徳性の育成	A	○	A	
3 地域の人材活用の推進	A	○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 授業を核に、年間指導計画に基づいた取組ができている。教科化を見据え、研修等により教師の指導力向上を図るとともに、家庭や地域との連携をさらに強化し、体験活動や地域人材活用の機会を増やし、学校教育全体はもとより地域全体を巻き込んだ取組を計画・推進するよう、引き続き求めていく。				

施策 ㉚ 生命の尊厳を基盤にした人権教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 人権尊重に基づいた学校文化構築に向けての研修の充実	A	○	A	こども教育課
2 いじめ、虐待、新たな課題(DV, デートDV, ネットによる人権侵害等)に対応した人権教育の充実	A	○	A	
3 人権尊重を基盤とした社会をめざす教育の推進と家庭・地域・関係機関との連携の推進	A	○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 教職員が、人権教育関係資料や情報モラル等の研修を実施し、人権教育に対する意識を高め、指導力・対応力を向上させることができるよう取組を進めている。今後も、家庭・地域・関係機関と連携し、人権教育の充実・深化が図れるよう指導の改善を行いながら取組を進めていく必要がある。				

施策④ コウノトリを核とした環境教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 地域の実態に応じた環境教育の充実	A	○	A	こども教育課
2 『いのち』について学ぶ「生きもの共生の日」(5月20日)の取組の充実	A	○	A	
3 環境保護・省資源化に向けた節電活動の実践	A	○	A	教育総務課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 小学校3年生の環境体験学習のみならず、総合的な学習の時間等の学習に環境教育を位置づけ、地域の「ひと・もの・こと」に五感を使って触れ合う学習を進めている。今後も次年度から始まるふるさと教育と関連させ、体験を通して発見したふるさとについて、自分の言葉で語る子どもの育成に努める。
 フィフティ・フィフティシステムは実施から11年が経過し、各校の使用電気量が減少するなど節電意識が定着してきた。このため、平成28年12月をもって取組を終了することとし、以降は節電のための啓発活動などは継続して行う。

施策⑤ グローバル化に対応した教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 ネットワーク上の個人情報適切な保護・管理及び著作権の尊重等、情報モラルに係る研修の完全実施	A	○	A	こども教育課
2 学校・地域で学ぶことのできる文化や伝統を大切にす活動の推進	A	○	A	
3 英語活動の充実	A	○	A	
4 大韓民国・アメリカ合衆国・モンゴル国との友好親善交流の実施	A	○	A	こども教育課/文化振興課
5 子どもたちが豊岡で世界と出会う音楽祭の開催	A	○	A	生涯学習課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 ふるさと学習、情報モラル教育等の取組により、豊岡のよさについての理解を深め、正しく情報発信する子どもの育成に取り組んでいる。来年度から、小1からの中3までの英語教育の実施に向けて、豊岡市英語カリキュラムの改訂と教員の授業力の向上に向けた研修会を継続していく。また、体験を通じた人、もの、こととのふれあいを大切に、広い視野で物事を考えられる子どもを育てる。

施策⑥ 過去の災害の教訓を踏まえた防災教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 関係機関・地域と連携した防災訓練の実施	A	○	A	こども教育課
2 災害対応マニュアルの不断の見直し	A	○	A	
3 東日本大震災を踏まえた「5.23」「10.20」「1.17」メモリアルデー防災・減災授業の実施	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 メモリアルデーの取組を核に、計画的な取り組みができていく。地域や関係機関等との連携を図ること、課題意識を持って取組を継続することにより、防災教育・防災体制の一層の充実を図る。

施策⑦ 豊かな人間関係の構築	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子どもと心でつながる市民運動の推進	A	○	A	生涯学習課
2 とよおか家族の日(10.8)及びとよおか家族の月間(10月)の取組強化	B	○	B	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 家庭において、地域において、これらの取組を進めることにより、子どもたちの中に見守られ、応援されているという安心感や自己有用感が醸成され、将来の豊かな人間関係を構築するための基本的な力を育むことにつながる。
 そのためにも、顔見知りになることや、地域や地区で子どもたちに一定の役割を与えることは大事な要素であり、今年度は夏休みラジ体操顔見知り運動のほか、8/28全市一斉防災訓練の日は中学校の部活動を取りやめ、地域の防災訓練において役割を担うようにも取り組んだ。
 また、普及啓発としてFMジャングルでの放送やチラシの配布、各子育てセンターでの家族の日関連イベントの実施など行っている。

施策⑦

美術展の開催では、伊藤清永賞子ども絵画展の実行委員会が全市的に組織されるようになったのは適切だと考える。他の組織体制でも、旧町の壁はできるだけ低くしていく必要があるのではないかと考える。

施策⑧

児童会・生徒会活動については、例えば中学校のリーダー研修会は、とても意義が大きいと考える。市内の中学校では規模や地域環境が異なる中、各学校で特色ある生徒会活動が実施されている。そのため、他校と交流する中で、市全体で取り組むべき課題や方向性などを協議していくことは、自立をめざす学校教育においても大きな意義があると思う。

出石永楽館狂言教室については、『永楽館』という建物自体に意義を感じるし、その場所で日本の伝統芸能である狂言を鑑賞できることは、豊岡市の大きな特色であり、大きな魅力であると感じる。さらに、狂言という6年生が学習する内容ともリンクしており、見事なふるさと教育にもなっているのではないかと考える。経費的には大きな負担であると思うが、是非とも継続実施をお願いしたい。

施策⑨

平成30年度からは道徳が教科化される。その動きの中で、国・県の研修会も始まっている。様々な課題を真剣に研究していただきながら、慎重かつ丁寧な現場対応を行っていただきたい。

施策⑩

人権教育は、旧町単位での温度差を感じることもあるが、命にかかわるとても大切な教育であり、拡充・継続推進をお願いしたい。指標に「いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う児童生徒の割合」があり、当然目標値も100%となっているが、結果は100%には至っていない。そう思わないと答えた数名の児童生徒は、いじめを肯定したのではなく、「どんな理由があっても」の記述に抵抗を感じたのだと推察する。社会の背景なども鑑み、理想ではあると思うが、子どもたちが抵抗なく「いじめはどんな理由があってもいけないこと」と言える教育に取り組んでいただきたい。いじめについては、いたずらとの境界線、判断基準がよく分からないとの意見もある。しかし、いじめかじめでないかに関係なく、何かされて困っている子どもがいるのであれば、困らないようにしてあげようという丁寧な指導対応が大切であり、そのような取組をお願いしたい。

伊藤清永賞子ども絵画展実行委員会の全市的な組織体制への改編に併せて委員数も3名増員し、強化・充実となりました。

リーダー研修会は、中学生が自分たちの生活について主体的に考え、意見を交流・発信する貴重な機会として、取組の継続と充実を図ります。

また、小中一貫の取組において、SNSのルールづくり等、生徒会と児童会と一緒に活動する機会を拡充させます。

豊岡だからこそできるふるさと教育だと考えます。継続して実施します。

「考え、議論する道徳」の授業づくりを道徳教育の要として取組を進めていきます。

生命の尊厳を基盤に、自他に対する肯定的な態度と共生の心を育むため、今後も人権教育の取組を充実させていきます。

施策④

地域の実態に応じた環境教育の充実では、豊岡はコウノトリが住むすばらしい環境であることを再認識できる教育を継続してお願いしたい。

生きもの共生の日の取組については、特別な日として設定し、市の取組として掲げている以上は、子どもたちにとってインパクトのある1日にしなければいけない。しかしながら、教育現場では様々な取組があるので、どうしても流れている感じがする。各教職員の意識向上を含め、意義のあるものにしていかなければならないと考える。

施策⑤

グローバル化に対応した教育では、語学力、コミュニケーション能力を向上させていくことは不可欠であると考え。しかし、子どもたちは十分なコミュニケーション能力が備わっていないので、自分の考えを伝え、他者のことを理解する力を伸ばす教育をお願いしたい。

英語活動の充実では、市全体の共通カリキュラムを作成したことは素晴らしいと思う。大切なことは実践していくことであり、その中で出てきた課題を見直し、更により良いものにしていく「更新型カリキュラム」となるよう取り組んでいただきたい。

施策⑥

防災訓練の実施では、全市一斉防災訓練への中学生の参加については、意義としては大きいし、中学生、小学生なりに、自分にできることを考え、行動させることに意義があると考え。しかしながら、今年度は参加状況や内容など地区によって温度差があったと感じる。地域での一斉防災訓練であることから、学校から参加を強制するのではなく、地域の方や保護者が率先して働きかけることが本来の姿ではないかと考える。

災害対応については、普段からの訓練が重要であり、学校でも年2回は避難訓練を行っているとのことであり、その成果から、先日の鳥取地震でも子どもたちは落ち着いて避難できたと聞いている。この鳥取地震の際、携帯電話による緊急地震速報により、地震到達まで短い時間ながらも備えができたとの結果も聞いているので、これらの情報が自動的に学校内や地域内などに広域的に流れるようなシステムの構築を検討いただきたい。

豊岡市の未曾有の水害から早12年が経過したが、この大災害を知らない人たちも多い。阪神・淡路大震災、東日本大震災、熊本地震などの災害ももちろんだが、身近な豊岡でも大きな水害・地震があったことを伝えていかなければならない。地域を知る上でも、具体的に見て、聞いて、伝えることが大切だと考える。

今後も、地域の「ひと」「もの」「こと」から学ぶふるさと教育等の取組を充実させ、豊岡の素晴らしさを再認識できるように取り組んでいきます。

積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度やコミュニケーション能力の基礎を養う取組を進めます。

授業実践を重ねながら課題を整理し、見直しを図っていきます。

小中学生が地域の一員として参加する訓練となるよう、関係課と協議していきます。

過去の災害に学ぶ防災教育、地域の災害特性を踏まえた防災訓練を充実させるため、消防や地域の防災組織等との連携を進めていきます。

施策⑦

とよおか家族の日の取組強化については、当日は何も行事を入れないようにすることを4月当初から周知し、徹底するなどの取組も必要だと考える。図書館で映画の上映会を開催したり、チラシを配るなど取り組まれているが、残念ながらまだ市民の認知度が低い。市全体の取組とするなら、企業への働きかけなども必要と考える。

年度当初に年間の普及啓発計画を立て、更なる周知・啓発に努め、市民の認知度の向上を図ります。

29年度は、子育てセンターや図書館での関連事業のほか、親子で楽しめる人形劇団クラルテによる上演等を予定しています。

また、企業への働きかけについては、主に商工会・商工会議所に対し、ワーク・ライフ・バランスの推進のため講演会や会報への掲載等を予定しており、とよおか家族の日についても、併せて推進していきたいと考えています。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子どもたちに、ねばり強く挑戦する力、全ての命に共感する力、人と肯定的にかかわる基本的態度を身につけさせるために、体験的・実践的な活動を重視した取組を進めていく。そのために、ふるさと学習をはじめ、道徳や防災等、多くの場面で地域の「ひと・もの・こと」に学ぶ機会を計画的に設定していく。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 3	「からだの力」の育成
	<p>子どもたちに、心と身体の健康と安全を主体的につくり出し、維持する力を身に付けさせることが重要である。</p> <p>このため、㊦全国体力・運動能力等調査の結果等を踏まえた体力・運動能力の向上、㊧望ましい食習慣の形成を図る食育、㊨心身の健康課題に適切に対応する健康教育等に取り組む。</p>

[指標の検証]

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 新体力テストにおける小学校5年生と中学校2年生の体力合計点のT得点	小5男 52.1 (+2.1) ○ 小5女 51.8 (+1.8) 中2男 49.5 (-0.5) ○ 中2女 50.3 (+0.3) ○ 【全国平均値 50】	全国平均以上 (T得点50以上)	小5男 51.6 (+1.6) 小5女 52.2 (+2.2) ○ 中2男 50.7 (+0.7) ○ 中2女 50.3 (+0.3) ○ 【全国平均値 50】
<input type="checkbox"/> 体育の授業は楽しいと思う児童生徒の割合	小 94.5% (-0.5) 中 88.7% (-4.3)	小 95%以上 中 93%	小 94.8% (-0.2) ○ 中 90.0% (-3.0) ○
<input checked="" type="checkbox"/> 朝食を毎日食べる児童生徒の割合	小 87.8% (-5.2) 中 85.5% (-3.5)	小 93% 中 89%	小 90.2% (-2.8) ○ 中 84.0% (-5.0)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 取組終了 (目標の達成等により終了)
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C 取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	— 未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	△ 疑義あり
	— 評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉞ 全国体力・運動能力等調査の結果等を踏まえた体力・運動能力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践と体育授業の充実	A	○	A	こども教育課
2 新体力テストを活用した体力づくり運動の実施と体育・スポーツ活動の推進	A	○	A	
3 各種体育大会の充実	A	○	A	
<p>(施策における取組の総括: 担当課中間検証)</p> <p>幼児期から系統的な指導を継続することは、子どもたちの体力や基礎的な運動能力の向上につながる。これまでの取組に加え、今年度から全小学校で「運動と学習をセットにした豊岡モデル」を実践している。「からだの力」の育成の柱として定着と更なる充実を図るため、成果と課題を整理しながら取組を発展させていくことが重要である。</p>				

施策 ㉟ 望ましい食習慣の形成を図る食育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 家庭や地域と連携した食に関する教育の推進 「食育の日」(毎月19日)、「弁当の日」の推進	A	○	A	こども教育課
2 食に関する指導の充実	A	○	A	
<p>(施策における取組の総括: 担当課中間検証)</p> <p>昨年度の取組をまとめた「豊岡市食育実践事例集」を各校に配布し、教科や行事等と関連させながら食に関する教育を推進しているところである。また、栄養教諭等の専門性を活かし、体験を取り入れながら地域の特色を活かした食に関する指導等も実施している。さらに、家庭や地域とも連携した取組を行い、食に関する教育の充実を図りたい。</p>				

施策 ㊱ 心身の健康課題に適切に対応する健康教育	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 発達段階に応じた健康教育の推進	A	○	A	こども教育課
2 関係機関と連携した各種講習会の推進	A	○	A	
3 規則正しい生活習慣の確立	A	○	A	
<p>(施策における取組の総括: 担当課中間検証)</p> <p>多様化、深刻化している心身の健康問題を解決するために、児童生徒自身が、正しい知識を身につけるとともに、自分自身で正しく対応したりする態度を身につけることができるよう健康教育を実施している。養護教諭や専門機関等と連携したり、家庭、PTA、地域とも協力し、さらに健康教育の充実を図っていく。</p>				

施策⑦

平成19年度から始まった幼児期における運動遊びの取組を年々拡充し、「豊岡市版小学校体育準備運動」の共通実践につなげて更なる充実が図られていることは大変に評価できると考える。今後も継続して取り組み、定着させるよう努力をお願いしたい。

また、運動と学習をセットにした取組では、今後は学習面でも効果が発揮されるよう運動内容や実施回数を増やす工夫をして「運動・きりかえ・集中タイム」を定着させ、学力の向上につなげていくことを期待する。

体力づくり運動の実施については、20年以上前の小中学生と比較すると、全国的に体力が落ち込んでいることは明らかであるため、体力のある元気な子どもを育成することが望ましいと考える。

各種体育大会の実施については、小学校の運動会、中学校の体育大会が継続して取り組まれている点は評価できると考える。また、運動会や体育大会を見る限りでは、子どもたちの楽しさや喜びも感じる事ができた。その一方で、安全対策や児童数減少のため、廃止となった演目や競技等も見受けられる。安全対策、児童数の減少などマイナス要素が増える中で、いかに運動の楽しさや喜びを実感させる大会とするかが今後の課題となるのではないかと考える。

施策⑧

食育については、栄養教諭による訪問指導が学校園で実施され、児童や保護者のためにも良い取組と評価できると考える。また、教育活動全体を通して食に関する指導も全学校園を通して実施されていることも評価できると考える。さらに、保育園等でも管理栄養士による巡回指導が実施されており、子どもたちをはじめ、職員、保護者へと食育の大切さが伝わっている。現在、保育園等における巡回指導は年1回での実施であるが、管理栄養士を増員して実施回数を増やし、食育への理解をさらに深める取組を行っていただきたい。加えて、地域の特色を生かした食育をさらに推進し、豊岡の食材を好きになる児童が増えることを期待する。

施策⑨

発達段階に応じた適切な健康教育については、継続的に推進されており、このまま継続実施されることが望ましい。健康教育の内容は、時代に応じて適切な対応が必要と思われる。最近の例では、スマートフォン依存なども健康教育の課題に含まれると思われる。

関係機関と連携した各種講習会の中で、消防署と連携したAED講習については、継続的に教職員・保護者向けに講習会が開催されており、評価できると考える。AED講習には段階があり、現在は簡易的な講習会が主と思われるが、教職員・保護者が普通救命講習Ⅰを積極的に受講することを推進し、拡充を期待したい。一方で、児童生徒に対しては、中学生は保健体育の中で指導されているが、小学生は発達段階からみてもAEDの使用は困難と思われるため指導されていない。しかしながら、児童もいざという時に大人を呼んで来るなど行動ができるよう、人命救助教育も大切だと思われるので、その指導についても検討されたい。

「運動と学習をセットにした豊岡モデル」の取組は、継続することに加え、内容や成果を交流することにより、一層の充実を図ります。

「豊岡市版小学校体育準備運動」及び「運動と学習をセットにした豊岡モデル」の確実な実践を通して、体力の底上げを図ります。

子どもたちの実情を踏まえ、参加する喜びを感じられる行事となるよう、内容や指導計画の見直しと工夫を進めます。

今後も栄養教諭等や家庭・地域との連携した取組を充実させ、児童・生徒の望ましい食習慣を図ります。

今後も、心身の健康課題に適切に対応する健康教育を目指すため、教職員、児童・生徒、保護者を対象とし、取組を充実させていきます。

なお、AEDは人命救助に有効な機器であり、学校をはじめ商業施設などにも設置されているが、設置場所が分からなければ意味がないので、広く周知するためにも設置箇所等を記したマップの作成を検討いただきたい。そのマップには、携帯電話を持っていない子どもでも使用できる緊急用公衆電話の位置も併記されていければなお有効と考える。

規則正しい生活習慣の確立については、朝食を毎日食べる児童生徒の割合が小学生では施策の指導のもとに増加傾向にあるが、中学生は数年連続して減少しているため、中学生の減少を改善する施策を期待したい。しかし、家庭内での生活習慣であり、学校園からの直接的な改善は困難だが、朝食を食べること、睡眠によるメリットを積極的に家庭や地域に周知していただくことを期待する。

今後のPTAや地域と連携・協力し、子どもたちの安全・安心な生活が確保できるよう取組を進めていきます。

子どもたちの規則正しい生活習慣の確立に向け、関係機関や保護者と連携し取組を進めていきます。

〔基本的方向における総括：教育委員会年度末検証〕

子どもたちに、心と体の健康と安全を主体的につくり出していくことは重要な課題である。関係機関や保護者・地域等との連携を図りながら、この成果を持続、発展させるためにさらに取組を充実させていきたい。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 4	「あたま・こころ・からだの3つの力を支える基礎力」の育成
	<p>子どもたちに、夢実現力の基礎力の育成期にあたる乳幼児期において、肯定的な言葉と行動を基盤とした関わり方により、人や物事へ自分から関わる意欲、健全な生活を営むために必要な態度、基本的な生活習慣等を育成することが重要である。</p> <p>このため、㊦健康な体をつくる運動遊び、㊧基本的な生活習慣の確立、㊨身近な環境への好奇心や探究心の育成、㊩人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成、㊪様々な体験活動等に取り組む。</p>

【指標の検証】

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 体を動かして遊ぶことが好きな園児の割合	98.5% (-0.3)	H26現状値(98.8%) を下回らない	98.9%(+0.1)○
<input type="checkbox"/> 友だちと遊ぶことが好きな園児の割合	99.7% (-0.2)	H26現状値(99.9%) を下回らない	99.4%(-0.5)
<input type="checkbox"/> 午後9時までに就寝する園児の割合	55.6% (-11.4) (10時まで 97.1%)	67%	56.8%(-10.2)○ (10時まで97.1%)
<input type="checkbox"/> 毎日朝食を食べている園児の割合	99.4% (+4.4) ○	95%	94.5%(-0.5)○ (ほぼ毎日99.5%)
<input type="checkbox"/> 毎週1回以上、家庭で絵本の読み聞かせをしている家庭の割合	73.7% (-2.3) (3回以上 36.1%)	76%	71.8%(-4.2) (3回以上38.9%)
<input type="checkbox"/> 幼稚園・保育園・認定こども園に行くことが楽しいと思っている園児の割合	98.6% (±0)	H26現状値(98.8%) を下回らない	98.6%(-0.2)○
<input type="checkbox"/> 「おはよう」などのあいさつや「ありがとう」のお礼が言える園児の割合	92.5% (新規)	H27現状値(92.5%) を下回らない	92.3%(-0.2)
<input type="checkbox"/> 家で遊んだ後に、おもちゃなどの片付けができる園児の割合	66.6% (新規)	H27現状値(66.6%) を下回らない	65.6%(-1.0)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 取組終了(目標の達成等により終了)
	A 継続実施(拡充・現行方法による継続実施)
	B 改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)
	C 取組廃止(取組の必要性等から廃止)
	— 未着手(未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	△ 疑義あり
	— 評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策⑦ 健康な体をつくる運動遊び	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 幼児期における運動遊びの推進	A	○	A	こども育成課
2 食育の推進	A	○	A	
3 親子のふれあい活動の推進	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 運動遊びはすでに定着し、各園ならではの特徴を活かしながら発展させてきている。食育も着々と進められ、食育の意義や効果などが広まってきており、各園意欲的に進められている。また、栄養士による食育活動の効果の大きさを感じている園が多く、今後とも継続発展させたい。

施策⑧ 基本的な生活習慣の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 生活リズムの定着の推進	A	○	A	こども育成課
2 幼児期の基本的な生活習慣の定着	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 生活リズム、基本的な生活リズムの各園アンケート実施、園だより等での啓発をくりかえし行っている。それによって、生活を見直していただける家庭と、意識が低かったり、対応しにくい家庭との二極化が生まれてきており、伝え方に工夫と配慮が必要と考える。また生活リズムアンケートのマンネリ化を感じている園もあり、今後の検討課題ではあるが定着へ向けて継続していく。

施策⑨ 身近な環境への好奇心や探究心の育成	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 自然体験の充実	A	○	A	こども育成課
2 動物の飼育や野菜などの栽培活動の推進	A	○	A	
3 「自然体験マップ」の活用	B	○	B	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 直接体験による感動は、自然と関わるなかでの自主的活動、協同作業から生まれてくる実感は皆が持っており、園外活動、小動物飼育などは積極的にしている。課題として、クマ、サル、マムシ等の出現により、自然に触れることに制限が生じてきていること、以前作成された園毎の自然体験マップの引き継ぎがなされていないことが多く、活用しにくくなっていることなどがあげられる。今後、見直しが必要かもしれない。

施策⑩ 人の話を聞き、自分の思いを言葉で表現する力の育成	中間外部検証		最終検証	担当課
	担当課	検証委員会	担当課検証	
1 絵本の読み聞かせの推進	A	○	A	こども育成課
2 話す力・聞く力の定着	A	○	A	
3 感じたことや考えたことを表現する力の育成	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 地域のかも借りながら読み聞かせの推進が行われており、活動として定着しつつある。これを元に、聞く力、想像する力などが育てられてきており、人の話を聞く姿勢がだいたいみられるようになってきていると感じていることが増えた。反面、話を聞いて感じたこと、考えたことを表現する力はまだ育ちつつある過程であり、今後、保育の中での配慮が必要である。また、話すという力に関して、地域性(小規模園)を感じている園もある。一人一人にあった表現がしやすい環境づくりを図っていく。

施策⑪ 様々な体験活動	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 様々な体験活動の積み重ねと社会的ルールの育成	A	○	A	こども育成課
2 就学前の教育・保育計画「スタンダード・カリキュラム」や「すくすくプログラム-5つの育てたい力-」を基本にした就学前教育の充実	A	○	A	
3 身近な人(地域の在宅児や高齢者)と関わる力の育成	A	○	A	
4 英語への興味・関心を育む保育の推進	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)
 昨年度から公開保育後に参加者による事後研修を始めた。参観する中で、自分の気付き、思い、保育に対する考えなどを発言し、皆で共有することにより、保育を公開した保育者だけでなく、参加者全員が学び合えるよい機会となってきたと考える。回を重ねることにより、気付きも細やかで保育力の向上を感じる。地域との交流は積極的に行われており、地域からの期待も大きいようである。英語遊びはモデル園事業2年目であるが、モデル園外園からの期待も感じられるようになり、来年度からの全園展開に向けて丁寧に進めていきたい。様々な体験活動を通して、コミュニケーション能力の向上も期待される。

〔中間外部検証意見〕

〔年度末教育委員会検証〕

施策⑦

幼児期における運動遊びは、毎日の活動として定着し、大変効果を上げている。昨年度の検証の中で、巡回指導員が不足しているとの指摘があったが、今年度も人員は変わっていない。数多く巡回指導されているので、引き続き人員の確保に努めていただきたい。

施策⑧

幼児期の基本的な生活習慣の定着について、1つの事例として、遊んだ後の片付けができない子どもが多いように見受けられる。園では自分で片付けができていても家庭ではできない場合もあると聞く。保護者が園での様子を知ること、家庭でも辛抱強くしつけをし、見守ることができるようになることもあるので、引き続き定期的な園だよりの発行や生活アンケートの実施などで、基本的な生活習慣の大切さを保護者に伝えていただきたい。

施策⑨

自然体験マップの活用については、平成22年の作成から年月が経ち、地域の環境の変化への対応や職員間での引き継ぎが十分でないことなど、課題があると自己評価されており、そのとおりと考える。一方で、この自然体験マップは、各園にとって積極的な園外保育で自然に触れ合うためには必要なものであり、今後も内容を適宜改訂しながら、子どもたちが安全に遊べるよう活用していくべきものと考ええる。さらに、自然の中で起こる虫刺されや危険な動物に遭遇したときの対処法などについても、親子が学んでおくことも必要ではないかと考えるので、より一層の取組の充実を目指していただきたい。なお、自然体験マップを活用する時には、その地域をよく知る方々と連携するとともに、地域と築いたつながりについても、職員間でしっかりと引き継がれるよう工夫をお願いしたい。

施策⑩

英語への興味・関心を育む保育の推進では、モデル園以外にも指導員による英語遊びが展開され、子どもたちも楽しんでおり、回数を重ねるごとに興味関心が広がっている。来年度から全園展開されるこの取組に期待している。

指導員の人員確保・養成を図り、保幼小が一体的に取り組める事業として、今後も引き続き安定的かつ継続的に展開できるよう努めます。

各園での生活アンケートの内容の検討を図ろうとしている園もあります。アンケート、園だより等の工夫により、家庭での意識向上を目指します。

従来の自然体験マップを各園の実態に合ったものとして、豊かな自然体験ができるよう工夫していきます。

29年度から各園で年間15回程度の英語遊び保育を実施する予定です。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

運動遊びの定着が様々な活動の基本となることが検証され、ますます活発に取り組まれてきている。また、英語遊び保育も併せて、自己肯定感を高める活動ともなっている。自然体験も安全面での制限を感じながらも各園で工夫されながら展開されている。また自然体験を通して園と園、園と小学校との交流も積極的にもたれ、人や物事に自分から関わる意欲が養われてきているのではないかと考える。今後も園での工夫を重ね、積極的に「ひと」「もの」「こと」に関わっていくようにしたい。基本的な生活習慣の育成は継続的な取組が必要とされる。引き続き、園と家庭が協力していくよう努力しなければいけないと考える。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 1	夢実現力を育む教育の推進
基本的方向 5	<p style="text-align: center;">特別支援教育の充実</p> <p>特別支援学級のみならず、通常の学級に在籍するLD、ADHD等を含めた特別な支援が必要な子どもたちの能力や可能性を最大限に伸ばし、自立し社会参加するために必要な力を培うことが重要である。</p> <p>このため、インクルーシブ教育システム構築を見据えた障害のある子ども一人一人の教育ニーズに対応した「兵庫県特別支援教育第二次推進計画」に基づき、㊦発達特性の理解と早期からの一貫した支援、㊧共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習、㊨保護者支援等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
■ 学校に行くのが楽しくないと思う児童生徒の割合	小 7.6% (+3.4) ○ 中 21.5% (-7.5)	小 5%以下 (+6) 中 14%以下	小 12.9% (-7.9) 中 18.7% (-4.7) ○
□ 豊岡市こども支援センターが、子どもたちの適切な支援の在り方について連携した学校園の割合	100% (±0) ○	100%	100% (±0) ○

- ・・・ 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。
- ・・・ 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 取組終了 (目標の達成等により終了)
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C 取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	— 未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	△ 疑義あり
	— 評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 発達特性の理解と早期からの一貫した支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 豊岡市子ども支援センターの機能の充実	A	○	A	子ども教育課
2 スーパーバイザー支援事業	A	○	A	
3 校園内支援体制の充実	A	○	A	
4 個別の教育支援計画の作成・活用の促進	A	○	A	
5 個別の指導計画の作成・活用の促進	A	○	A	
6 教職員の専門性向上をめざした実践的研修の推進	A	○	A	
7 就学指導のための教育相談の充実(校園内及び各関係機関)	A	○	A	
8 卒業後までを見通した一貫した支援の充実	A	○	A	
9 スクールカウンセラーによる相談支援事業の実施	A	○	A	
10 介助員並びにスクールアシスタントの効果的な活用	A	○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) スーパーバイザー支援事業をはじめとする特別支援教育に係る研修を通して、教職員の専門性の向上を図っている。豊岡市子ども支援センターと各校園、関係機関とが連携し、要支援児童・生徒等の早期発見と情報共有について迅速に対応している。				

施策 ㉘ 共に学ぶことで豊かな人間性を育む交流及び共同学習	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 交流及び共同学習の推進	A	○	A	子ども教育課
2 地域における交流会の実施	A	○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 特別支援学級在籍の児童生徒の自立をめざし、交流及び共同学習や他校との交流会のねらいを明らかにして計画的、組織的に取り組んでいる。				

施策 ㉙ 保護者支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 保育園等巡回相談の実施	B	○	B	子ども育成課
2 子育てに関する相談を通して支援が必要な園児児童生徒の早期発見と保護者支援	A	○	A	
3 豊岡市子ども支援センターの機能の充実	B	○	B	
4 就学指導のための教育相談の充実(校園内及び各関係機関)	A	○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 保育園というくりだけでは整理しにくく、就学前,5歳児を中心に対象児を保育園、子ども園、幼稚園、療育通園児などトータルの把握し、訪問相談及び対応を検討しながらスムーズな就学、連携へとつなげていく必要があると考える。 子どもの発達が気になるようであれば子ども支援センターの教育相談や検査につなげ、児童の適切な支援ができる体制であるが、各関係機関の連携については課題があり、システム作りを進めているところである。				

施策⑦

こども支援センターについては、教育現場にとってその存在は大きく、相談機能や他の関係機関との連携について、課題はあるもののスムーズになって分かりやすくなった。特別支援においては、学校園は保護者と連携して進めていくことが必要であり、支援が必要な子どもの早期発見、早期対応など、迅速に進めることが重要である。一方で、特別な支援を必要とする子が増えている現状では、学校園の活動を支えるためにこども支援センターがさらに充実していく必要があるが、現在でも職員のオーバーワークが気にかかることであり、機能の充実のためにも更なる増員をお願いしたい。

特別支援教育の専門性の向上のための研修の一つとして日高東中学校区で行われているスーパーバイザー支援事業については、「支援の要らない子は一人もいない」を実践理念とし、授業のユニバーサルデザイン化と教職員の子どもたちへの関わりの質を高めることに取り組まれている。この取組での学びを全市に還元し広めることで、支援・指導の質の向上に更に取り組んでいただきたい。

発達に特性のある子どもたちが社会的に自立できるように支援することも学校教育の目的であり、そのためにも、幼稚園、小学校、中学校、高等学校と一貫した支援が重要で、高等学校、特別支援学校高等部との連携もさらに必要ではないかと考える。

スクールアシスタントや介助員の配置については、本当に厳しい財政の中で増員されつつあり感謝する。しかし、それでも現在の学校の状況ではまだまだ不足しており、現場の要望の半数程度の配置に留まっているのが実情である。一人ひとりに個別的な関わりが必要な場面が数多くある一方、支援の必要な児童・生徒が増加している事実もあることから、更なる増員をお願いしたい。

施策⑧

保育園等巡回相談については、3歳児以上を目安に実施されているが、保育園、こども園では1、2歳の頃から育ちが気にかかる子がいるため、手探りで保育を進めている。3歳児未満への対応は健康増進課の保健師による相談事業が中心となるとのことだが、保健師と連携を取りたくても、保護者の同意や個人情報との関係もあるのでなかなか進めにくい。こども支援センターができたおかげで連携しやすくなっているが、2歳児は成長過程において大切な年齢なので、2歳児も保育園等巡回相談の対象にするなど支援の拡充をお願いしたい。

可能な限り、現場の要請に応えられるよう努めます。

2年間の指定期間で行ってきたスーパーバイザー支援事業の成果を踏まえ、他の地区においても同様の研究指定を実施していく予定にしています。

連絡シートやサポートファイルの組織的な引継ぎを含めて、関係校園との連携を一層深めていきます。

平成29年度に向けて、3名増員されました。今後とも更なる増員を要望していきます。

早期発見、早期対応の必要性が問われてくる中、平成29年度へ向けて保育所等巡回相談の在り方を検討します。

保護者支援としては、今年度、こども支援センターが保護者向けの研修講座を計画されており、そこで職員も一緒に学ぶことができることには意義がある。今後も積極的に取り組んでいただきたい。

発達特性については、保護者はその特性になかなか気づくことができず、また、特性があることを受け止めるまでに時間がかかることもある。先生と保護者が共に子どもを理解し合えるような取組を進めていただきたい。

また、発達に特性のある子どもに対して本当に必要な支援をするためには、周囲の理解と寄り添う気持ちが大切であると考えます。保護者もPTAを通じて発達特性について認識されつつあるが、今後、さらに理解を深めるためにも保護者向けの研修会や啓発活動などに積極的に取り組んでいただきたい。

28年度は、6テーマ延べ11回の講座を開催しました。

学校園の教職員だけでなく、保護者の参加も多くありました。

学校園と家庭が協力しながら、こどもの成長を支えていけるよう、引き続き取り組んでいきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

特別支援学級のみならず、通常の学級に在籍するLD、ADHD等を含めた特別な支援が必要な子どもたちの能力や可能性を最大限に伸ばすため、教職員や保護者等を対象にした公開講座を広く開催したり、子どもの発達特性を踏まえた支援・指導についてより実践的な研究に取り組んだりしたい。

また、合理的配慮の観点を踏まえた個別の指導計画等の作成、活用、引継ぎを行い、子どもたちが自立し、社会参加するための環境を整えていきます。

施策④-1「保育所等巡回相談」の課題を見直し、健康増進課、こども支援センターとの協議の上、療育センター「風」を協力機関として組み入れる。また訪問対象児を原則として3歳以上児とするが、3歳未満児については健康増進課のチェック項目により、各園の担任が事前チェックを行い、その後の巡回訪問等へつなげられるようにする。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 1	学校園の組織力及び教職員の資質能力の向上
	<p>子どもの状況の変化や、保護者や社会からの要請が多様化・高度化する中で、学校園の組織力を向上させ、緊急・重大な事案等に教職員が一丸となって迅速に機動的にかつ的確に対応するとともに、子どもたちに夢実現力を育成する学校教育の専門家として保護者・地域に信頼される開かれた学校園づくりを進めることを視点とすることが重要である。また、教職員には、子どもたちに寄り添うことで、一人一人の個性や能力・可能性を伸ばし、育てるとともに、夢実現力の育成と様々な教育課題に適切に対応できるよう、資質向上に努め、心身の健康を保持することが求められている。加えて、体罰の防止にも取り組む必要がある。</p> <p>このため、⑦校園長のリーダーシップのもと教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にかつ協働体制の確立、④いじめや暴力行為等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対策、⑤授業力や多様な教育課題への対応力等教職員の資質と実践的指導力の向上等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 授業中に学習に対する児童生徒の興味・関心を高めるために、コンピューターや提示装置を活用して資料などを効果的に提示できる教職員の割合	小[H26] 74.8% (-2.2) ○ 中[H26] 62.3% (-15.7)	小 77% 中 78%	小 [H28] 84.8% (+7.8) ○ [H27] 72.4% (-4.8) 中 [H28] 77.0% (-1.0) ○ [H27] 67.9% (-10.1) ○
<input type="checkbox"/> 悩みを抱えたときに、誰にも相談しない児童生徒の割合	小 11.9% (+7.1) ○ 中 14.1% (+5.9) ○	小 10% (+9) 中 12% (+8)	小 16.2% (-6.2) 中 14.7% (-2.7)
<input type="checkbox"/> 認知したいじめを解消させた割合	小・中[H26] 100% (±0) ○	100%	小・中 [H27] 100% (±0) ○
<input type="checkbox"/> 不登校児童生徒の割合	小[H26] 0.43% (-0.04) ○ 【国平均 0.39%】 中[H26] 2.75% (+0.01) 【国平均 2.76%】	全国平均以下	小 [H28] 0.48% ○ [H27] 0.57% (-0.14) 【H27国平均 0.43%】 中 [H28] 4.02% [H27] 2.33% (+0.62) ○ 【H27国平均 2.95%】

■・・・ 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・ 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S 取組終了 (目標の達成等により終了)
	A 継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B 改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C 取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	— 未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○ 妥当
	△ 疑義あり
	— 評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 校長のリーダーシップのもと教職員一人一人の力を組織的かつ機動的にいかしていく協働体制の確立	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 小・中学校と関係機関との生徒指導に係る情報交換の推進	A	○	A	こども教育課
2 子どもと向き合う時間の確保	A	○	A	
3 学校評価の推進	A	○	A	

(施策における取組の総括: 担当課中間検証)

各学校園の協働体制を確立するには、学校教育目標、夢実現力行動プラン2016等の共通理解を図り、教職員一人一人の能力・適性をいかした学校運営を行い、PDCAサイクルを機能させて評価・改善を続ける組織力の向上が重要である。加えて、学校園が抱える多様な課題を解決し、子どもたちに夢実現力を育むためには、学校・地域・家庭の連携、学校と関係機関の連携の重要性は高まる一方である。合わせて、教育活動のさらなる充実を図るために、教職員が時間的・精神的ゆとりをもって子どもたちと向き合う時間を確保できるよう、教育委員会として各学校園をサポートし、取組みを継続・充実させていく必要がある。

施策 ㉘ いじめや暴力行為等の問題行動の未然防止、早期発見、早期対策	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 いじめ防止基本方針に基づく、いじめの未然防止、早期発見・早期対応における組織的な対応の充実	A	○	A	こども教育課
2 「不登校対策アクションプラン」の積極的な推進	A	○	A	
3 不登校対策指導補助教員の配置	A	○	A	
4 不登校児童生徒の学校復帰の取組の充実	A	○	A	
5 スクールカウンセラーによる相談支援事業の実施	A	○	A	
6 「子どもの心を理解する強化月間」の充実	A	○	A	
7 心理検査を活用した生徒指導の充実	A	○	A	
8 情報モラル研修会の実施	A	○	A	

(施策における取組の総括: 担当課中間検証)

個々の教師の資質向上と組織的な対応のための体制強化が最重要課題である。不登校が増加している状況を踏まえ、自分たちの取組の見直しと検証を行って課題を明確にし、研修の内容等に反映させるよう学校に求めていく。また、各校の取組の成果等の交流の機会を定期的に設ける等、具体的に取り組む予定である。

施策 ㉙ 授業力や多様な教育課題への対応力等教職員の資質と実践的指導力の向上	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 授業づくりと学級づくりの一体化の質的向上	A	○	A	こども教育課
2 「いじめ対応マニュアル」「No! 体罰(改訂版)」等を活用した校内研修の実施	A	○	A	
3 民間企業等における社会体験を行う「先生のトライやる」の実施	A	○	A	
4 トワイライト教師塾の実施	A	○	A	
5 選択制研修講座の実施	A	○	A	
6 豊岡市中学校教育研究会・教科部会の充実	A	○	A	
7 児童生徒及び教職員のICT活用能力の向上	A	○	A	

(施策における取組の総括: 担当課中間検証)

教職員が専門的力を高めることなしに、子ども達一人一人の個性や能力・可能性を伸ばす事はできない。教職員が自ら学び続け、資質向上に努められるよう、互いに学び合うことができる実践的な研修会に取り組むことが重要である。特に、若手教職員の割合が高くなっている現状から若手教職員の力量向上は教育界にとって大きな力となる。新任研修においては校内においても校外研修においても多くの指導者が関わり研修の場も設定されているが、新採用から2・3年目の教職員の研修は手薄な実態があるため、まずは、その層における研修体制の見直しを図る必要があると考える。

施策⑦

協働体制の確立については、学校間、関係機関との連携は年々強くなっており、生徒指導上の課題やその解決、未然防止の大きな力となっている。特に学警連絡会は、校区内での様子を情報交換するだけでなく、小・中学校の引継ぎにもなっている。このような様々な問題に対して迅速に対応し解決していくためには、教職員が余裕を持って子どもたちとかわる時間が必要と考える。引き続き、各学校で業務改善、勤務時間の適正化に向けての取組が望まれる。

子どもと向き合う時間を確保するためには、学校業務改善が必要と考える。学校への他機関からの要請が多く、それに応えていくことが多忙につながっている面もあると考える。このため、学校への負担を軽減する方法等についても検討いただきたい。

施策⑧

いじめ等問題行動の未然防止、早期発見については、「子どもの心を理解する強化月間」を中心に各学校で積極的に取り組まれ、教育相談も充実してきている。しかし、いじめはなくなっていないのが現状である。今一度、家庭内で子どもとの関わり方を見直すとともに、教職員の資質向上の両面から対策を考えていく必要があると考える。

不登校児童生徒への対策としての指導補助教員の配置は、学校にとっても大変ありがたく効果もあがっている。しかしながら、不登校児童の状況については、保健室登校、相談室登校、放課後登校、こども支援センター等公的機関への通級など、明らかに多様化するとともに、増加している現状もある。そのため、これまで以上に個々の状況に応じたきめ細やかで丁寧な対応が必要であり、指導の充実を図るためにも、指導補助教員の増員をお願いしたい。

施策⑨

教職員の資質と実践的指導力の向上については、新採用から2年目、3年目、特に3年目の教職員への研修は意義があると考え。特別な支援を必要とする児童生徒へ適切な対応をしていくためにも、今年度夏季休業中に開催されたような研修の継続実施をお願いしたい。

授業づくりと学級づくりの質的向上では、小規模の学校が多くなってきた現状においては、各種研修の場を設けることは大切なことであると考え。1つの学校に同学年を担当する教職員が複数いない状況の中で、なかなか相談することができないのが実態であり、研修等で複数校の同学年の教職員が集まり協議できることは大変有意義である。また、横のネットワークを広げたり、強めることにもつながり、大変よい取組であるので今後も継続をお願いしたい。

小中一貫教育の中で、子ども達の声を反映させながら、特に小6から中1への引継ぎの充実を図ります。

勤務時間適正化委員会の開催、学校業務改善中心校（加配校）への支援とその成果を市全体へ還元する等、できる限りの支援に努めます。

「いじめはどこでも、誰にでも起こり得る」との認識のもと、全職員で組織的にいじめ対策に取り組みます。

指導補助教員の増員をはじめ、個に応じた取組の充実を図ります。

教職員の研修ニーズに対応する研修の充実に向けて努めていきます。

今後も小学校長会と連携しながら、授業実践を重視する研修として実施していきます。また、地域の実態に応じて、小中一貫ブロックの研修にも位置付ける可能性を探っていきたく考えています。

子どもの状況の変化、多様化・高度化する保護者や社会からの要請に対応するために、協働性を高め、教職員が一丸となって取り組む態勢を整え、学校の組織力と教師の資質の向上を図る。また、子どもや保護者、地域の声に真摯に耳を傾け、ともに課題に対応する姿勢を徹底し、信頼される開かれた学校園づくりを進める。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 2	安全・安心な教育環境の整備
	子どもたちが安心して学校園生活を送るため、安全で質の高い教育環境の整備が重要である。 このため、⑦学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実、①様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための就学支援等に取り組む。

[指標の検証]

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
<input type="checkbox"/> 吊り天井等の落下防止対策(屋内運動場・武道場)の実施率(小・中学校)	27%(3校) (±0) ○	64%(7校) (+37)	64%(7校) (±0) ○
<input type="checkbox"/> 小・中学校PCのタブレット導入	小 10%(3校) (±0) ○ 中 0%(0校) (±0)	小 62%(18校) (+52) 中 11%(1校) (+11)	小62%(18校) (±0) ○ 中11%(1校) (±0) ○
<input type="checkbox"/> 学校給食において地場産物を使用する割合	28.9%[H26](-1.1) ○	30%以上	[H28] 22.0% (-8.0) [H27] 27.1% (-2.9)

■・・・ 全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・ 各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S	取組終了 (目標の達成等により終了)
	A	継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B	改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C	取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	—	未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○	妥当
	△	疑義あり
	—	評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策⑦ 学校園及び給食センターの安全対策やICT環境等の教育環境の整備・充実	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 老朽プールの整備	A	○	A	教育総務課
2 学校園施設、設備、遊具等の定期的な安全点検の実施及び改修の実施	A	○	A	
3 ICT環境の整備	A	○	A	
4 吊り天井等落下防止対策の推進	A	○	A	
5 地産地消の推進と食に関する指導の充実	B	○	B	
6 食物アレルギーへの取組の推進	A	○	A	
7 通学(園)路の安全点検と指導の充実及び関係機関・保護者・地域との連携強化	A	○	A	こども教育課
8 防犯ブザーの小学1年生への配布	A	○	A	
9 通学(園)の手段の確保	A	○	A	こども育成課
10 幼児教育・保育施設の整備	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

老朽化等による施設の不具合に対しては、緊急度の高いものから順次対処してきた。また、緊急度の低い場合も計画的な対処に努めてきた。さらに、業者や学校現場等による定期点検や随時点検を行いながら、適切な維持管理に努めてきた。今後も安全・安心な環境の確保や、教育環境向上のための整備を計画的に進める。

施策⑧ 様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する教育の機会を確保するための就学支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 要保護・準要保護児童生徒への就学援助費の支給	A	○	A	こども教育課
2 特別支援学級在籍児童生徒への就学奨励費の支給	A	○	A	
3 就園奨励事業(実費徴収に係る補足給付事業)の実施	A	○	A	こども育成課
4 多子世帯・ひとり親世帯の保育料負担軽減	A	○	A	

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

イ-3、イ-4ともに、経済的に援助を必要とする保護者の経済的負担を軽減するため、継続して実施する。

施策⑦

学校園施設、設備、遊具等の定期点検及び改修や老朽プールの整備、吊り天井等落下防止対策などの教育環境の整備・充実については、計画的に実施が進められており十分に評価できる。なお、施設や設備の老朽化対応については素人の点検だけでは判断できない点も多いため、引き続き専門業者による点検も含めた取組の継続をお願いしたい。

また、予算の都合もあり、優先順位を決めて実施されていると思うが、子どもたちの安全を確保し、安心な教育環境づくりのための整備が継続的に行われるよう期待する。

ICT環境の整備では、タブレット導入が計画的に推進され、計画どおりの導入が進められている点は十分に評価できる。タブレットは様々な教育ができると思うので、より効果的な活用方法について、広い視野を持ちながら計画、実施をお願いしたい。また、教職員向けの指導も必要であり、本年度は夏季休業中の全体的な研修や学校ごとの研修が開催されているようだが、機器を計画的に導入することと併せて、導入してからの活用方法、導入効果をあげする方法を幅広い視点から検証することを期待する。

地産地消の推進と食に関する取組の推進では、子どもたちに地元の安心安全な食べ物を継続的に提供、推進していることは評価できると考える。「こうのとりの米」や利用頻度の高い地元野菜以外にも豊岡には優れた食材や郷土料理があるので、これらを活かしたメニューなど、子どもたちがより但馬を好きになるようなメニューを作っていただきたい。また、さらなる地元産食材の計画的利用に向け、地産地消給食等メニューコンテストへの出品、受賞を目標とした取組なども検討いただきたい。

通学（園）路の安全点検や関係機関との連携強化では、関係各所と連携し児童生徒の安全確保の取組を継続して実施されている点は評価できると考える。PTCAや学校園からの要望を十分に検討し、児童生徒の安全を最優先とした柔軟な取組を期待する。

施策⑧

様々な困難や課題を抱える子どもたちに対する就学支援では、保護者への就学支援の案内も十分に認知されていると感じる。児童生徒が充実し、楽しい学校生活を送ることができるように、保護者への案内を含め、継続した支援をお願いしたい。

引き続き定期点検や随時点検等による施設・設備等の状態確認を行ない、財政状況等も考慮しながら計画的な改修、整備を進めます。

タブレット導入については、今後も計画に基づき推進します。また、現場での活用が進むよう、無線LANやプロジェクター等の環境整備を検討していきます。

本市の食育の成果としては、市健康増進課を事務局として「とよおか食育レシピ集」の作成が上げられます。今後、このレシピ集がより一層充実し、子どもたちが地域を好きになるようなメニューに仕上がるよう進めていきたいと考えます。

児童生徒の安全を確保するため、学校・保護者のニーズを聞きながら、関係機関・関係課との連携を強め、取組を充実させていきます。

引き続き、就学支援制度についての周知を充実させ、児童生徒が安心して学校生活を送れるよう、援助が必要な保護者に対して継続した援助を行います。

子どもたちが安心して学校園生活を送るための施設整備や食物アレルギー対応のほか、質の高い教育環境を目指したICT環境の整備などに計画的に取り組むことができた。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 3	家庭の教育力の向上
	<p>家庭は、教育の原点であり、家族のふれあいの時間を確保し、基本的なしつけを行うことにより、人間関係の基礎を形成し道徳性の芽生えを培うことや、食生活と睡眠を重視した規則正しい生活習慣を身に付けさせることが重要である。</p> <p>このため、㊦親が親として成長するための学びの機会の提供、㊧関係機関の連携による家庭教育への支援、㊨家庭における子どもが伸びる習慣づくりの実践等に取り組む。</p>

〔指標の検証〕

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
<input type="checkbox"/> はばたきメッセージを入学説明会等で活用した学校の割合	100%(±0) ○	継続実施	100%(±0) ○
<input type="checkbox"/> 子育て講座の実施	子育てセンター 3箇所を実施	子育てセンター 6箇所を実施	子育てセンター 4箇所を実施(-2) (平成29年3月1日現在)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課)検証 (取組の継続等)	S	取組終了(目標の達成等により終了)
	A	継続実施(拡充・現行方法による継続実施)
	B	改善実施(取組の改善・見直しによる継続実施)
	C	取組廃止(取組の必要性等から廃止)
	—	未着手(未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○	妥当
	△	疑義あり
	—	評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ㉗ 親が親として成長するための学びの機会の提供	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 はばたきメッセージを活用した家庭教育のあり方の充実	A	○	A	こども教育課
2 PTA活動の充実	A	○	A	
3 子育て家庭を対象とした子育て講座の実施	A	○	A	こども育成課
4 親子が交流できる機会の充実	B	○	B	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 引き続き、『はばたきメッセージ』を活用し、親が親として成長する契機を創設に努めていきたい。(こども教育課) 豊岡市PTA連合会事業において、6月には『睡眠教育』、10月には『読書推進』に関する講演会を開催し(予定)、PTAとしても親としての学びの機会を創設に努めている。(こども教育課) 引き続き全子育てセンターでの子育て講座の実施について、努めていきたい。また、子育て講座以外の他の交流事業などについても、ニーズや社会情勢にあった内容に沿うように努め、親としての学びの場、親子の交流の場の充実を図っていきたい。(こども育成課)				

施策 ㉘ 関係機関の連携による家庭教育への支援	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 子育てに関する相談の充実	B	○	A	こども育成課
2 子育てに関する情報発信	B	○	B	
3 学校園と家庭児童相談室・こども家庭センターなどの関係機関との連携	B	○	B	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) こども支援センターが出来たことで、子育てセンター、こども家庭相談係、学校園との連携については改善が図られた。今後の課題として、どの相談窓口につながらなくて孤立している保護者と早期につながる仕組み体制が必要である。対応として、健康福祉部の事業ともつながりを持ち、妊娠期からの支援が効果的であるので、連携と支援体制を整えるよう協議を進める。				

施策 ㉙ 家庭における子どもが伸びる習慣づくりの実践	中間外部検証		年度末検証	所管課
	担当課	検証委員会	教育委員会	
1 すくすくメッセージや紙芝居「めらとにんじやのしゅぎょう」を活用した乳幼児期の生活リズムの定着	B	○	B	こども育成課
2 「運動遊びパンフレット」「おでかけマップ」により、家庭や地域での運動遊び・外遊びの促進	A	○	A	
(施策における取組の総括:担当課中間検証) 生活リズムの定着については、冊子や各種事業を通して啓発している。価値観や生活様式の多様化など社会環境が変化していく中、今後も 粘り強く継続的にPRしていく必要がある。				

施策⑦

親として成長するための学びの機会の提供として、講演会は開催されているが参加者が少なく、参加する親は固定化している。また、小さなグループはあるが、結果として親同士の交流の場がないと感じられる。同世代の子どもを持つ親同士の交流の場があれば、悩みや思いを共有し、違いを知ることで、親も成長できるのではないかと考える。参加しない親への周知等には課題があり、参加者を増やすことは難しいが、まずは、親同士の呼びかけが大切で効果があると考え。さらに、学級通信などで講演会に参加した保護者の声が目で届くような方法で呼びかけることも効果があるのではないかと考える。

施策⑧

関係機関の連携による家庭教育の支援では、こども支援センターができ、きめ細やかな取組によって、学校園への情報伝達や、学校園からの相談対応についても連携がスムーズになった。また、数年前から実施の5歳児発達相談でも、保護者への対応等が改善され、スムーズになってきた。今年度は、こども支援センター主催の公開講座も計画的に実施されており保護者の方にも良い学びの機会となると考える。開催結果の検証を踏まえ、次年度以降も効果的な取組を期待する。

子育てセンターでの子育て講座は、引き続き全センターでの実施に努めていきます。

女性の社会進出により、子どもの年齢が低い時期から保育所を利用する家庭が増えていることから、これらの親に対してのアプローチを検討する必要があると考えています。引き続き、交流の場、親育ちの場（子育てセンター）があることを機会あるごとに発信していきます。また、同じ地域に暮らす親子同士をつなげるためのコミュニティへの働きかけも重要だと考えています。

豊岡市PTA連合会事業においても、引き続き学びの場の創出に努め、多くの方に参加いただけるよう多様な広報の方法を検討します。

29年度は、こども支援センターにスクールソーシャルワーカーを配置するとともに、健康福祉部健康増進課に設置される「おやこ支援室」等関係機関と学校とのさらなる連携を図るための取り組みを進めます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

子育てセンターでの交流事業や乳幼児家庭教育委託事業などを実施し、家族や親子でふれあう時間を提供できた。平成29年度以降は、子育て家庭を取り巻く環境の変化等も考慮し、共働き家庭や父親への働きかけも検討する必要があると考える。

第3次とよおか教育プラン(豊岡市教育振興基本計画)

平成28年度実践計画検証総括シート

基本方針 2	子どもたちの学びを支える仕組みの確立
基本的方向 4	地域全体で子どもを育てる環境づくりの推進
	<p>子どもたちが地域の中で多様な学びと交流による経験豊かな成長がかなえられるよう、学校園・家庭・地域が一体となって、地域全体で子どもたちの教育に取り組むことが重要である。</p> <p>このため、①地域が主体的に学校運営に参画し、効果的な学校園支援活動を行うこと等地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり、②学校園からの積極的な情報発信を踏まえた地域と学校園の緊密な連携等に取り組む。</p>

[指標の検証]

指標名	H27現状値(目標差)	H28目標値(前年差)	H28指標の実現状況
■ 今住んでいる地域の行事に参加している児童生徒の割合	小 92.1% (-1.9) ○ 中 67.2% (-2.8)	小 94% 中 70%	小 91.1% (-2.9) 中 69.5% (-0.5) ○
□ 土曜チャレンジ学習事業を実施する小学校の校区数	11小学校区 (+1) ○	20小学校区 (+10)	20小学校区 (±0) ○
□ PTCAあいさつ強化月間の取組参加者数	5月 10,756人 (+666) ○ 11月 10,552人 (-571)	前年度以上の参加者数	5月 9,935人 (-821) 11月 9,347人 (-1,205人)
□ 夏休みラジオ体操顔見知り運動中学生参加率	92% (-3.0) (2,114人)	95%	91.9% (-3.1) (1,994人)
□ 学校支援地域本部事業に係る活動事例発表校数	発表済み校数 小学校 25校(±0) ○ 中学校 8校(±0) ○	未発表校5校のうち 3校以上の発表	発表済み校数 小学校 27校(±0) ○ 中学校 9校(±0) ○
□ 子どもの野生復帰大作戦子ども向けコース定員に対する参加者率	87.5% (-12.5) ○	100%	91.8% (-8.2)
□ 保育園待機児童数	28人 (-28) ○ (H28.3.1現在)	待機児童なし	56人 (-56) (H29.3.1現在)
□ 放課後児童クラブ待機児童数	1人 (-12) ○ (H28.3.1現在)	待機児童なし	1人 (-1) (H29.3.1現在)

■・・・全国学力・学習状況調査の児童生徒質問紙を用いて評価を行う指標。

□・・・各所管課の事業や独自調査などの結果により評価を行う指標。

※ 全国学力・学習状況調査【平成28年4月19日実施】

国・公・私立学校の小学6年生と中学3年生を対象に実施する、国語、算数・数学の教科に関する調査及び生活習慣や学習環境等に関する調査。(4月実施、9月結果公表)

※ H27現状値のうち、()内は対H27目標差を、○印はH26現状値よりも改善した指標を表す。

※ H28目標値のうち、()内は対前年差を表す。

※ H28指標の実現状況のうち、()内は対H28目標差を、○印はH27現状値よりも改善した指標を表す。

教育委員会 (担当課) 検証 (取組の継続等)	S	取組終了 (目標の達成等により終了)
	A	継続実施 (拡充・現行方法による継続実施)
	B	改善実施 (取組の改善・見直しによる継続実施)
	C	取組廃止 (取組の必要性等から廃止)
	—	未着手 (未着手のため、取組計画段階を検証)

検証委員検証 (担当課評価の妥当性)	○	妥当
	△	疑義あり
	—	評価不能

〔施策と取組の自己検証〕

施策 ①	地域が主体的に学校運営に参画し、効果的な学校園支援活動を行うこと等地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり	中間外部検証		年度末検証	所管課
		担当課	検証委員会	教育委員会	
1	安全ボランティアによる見守り活動の継続及び活動支援	A	○	A	こども教育課
2	学校支援地域本部事業の推進	B	○	B	
3	土曜チャレンジ学習事業の推進	B	○	B	
4	子どもと心でつながる市民運動の推進	A	○	A	生涯学習課
5	青少年健全育成推進及び青少年補導委員の連携・活動の充実	A	○	A	
6	とよおか家族の日(10.8)及びとよおか家族の月間(10月)の取組強化	B	○	B	
7	「家読」の推進	B	○	A	
8	子どもの野生復帰大作戦の展開	B	○	B	
9	仕事と子育ての両立支援	B	○	B	こども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

子どもを(学校)中心に据え、地域と家庭がそれぞれで具体的行動として取り組むよう引き続き普及啓発等に努める。更に、相互に連携・協力、そして協働しながら効果が上がるような施策展開が必要がある。
 社会教育に関する施策は、所管課(生涯学習課・こども教育課・こども育成課)が複数にわたっている現状を踏まえ、社会教育分野における“地域ぐるみで子どもを育成する体制づくり”を行うためのビジョンを共有し、施策展開を図る必要がある。
 仕事と子育ての両立支援施策の一つとして、放課後児童クラブを開設している。平成28年度は、年度当初から全校区で開設、運営している。利用者が年々増加している状況であるが、引き続き、開設スペースの確保、支援員等職員の確保に努め、待機児童の解消を図っていききたい。
 平成25年度から保育所待機児童が生じている状況が続いている。特に0歳児の受け入れ拡大が必要である。

施策 ①	学校園からの積極的な情報発信を踏まえた地域と学校園の緊密な連携	中間外部検証		年度末検証	所管課
		担当課	検証委員会	教育委員会	
1	学校・家庭・地域の連携強化	A	○	A	こども教育課
2	地域や警察等関係機関と一体となった防犯訓練の全校実施	A	○	A	
3	「子どもを守る110番の家」等の避難場所の周知など、地域安全マップの定期的確認	A	○	A	
4	開かれた学校づくりの推進	A	○	A	
5	学校評議員制度を活かした学校園づくりの推進	A	○	A	
6	学校関係者評価の実施と結果の公表	A	○	A	
7	幼稚園・保育園・認定こども園の園児と在宅親子との交流	A	○	A	こども育成課

(施策における取組の総括:担当課中間検証)

子どもたちが地域の中で多様な学びと交流による経験豊かな成長がかなえられるよう、HPや学校園便り等の情報発信、学校評議員委員会や学校関係者評価など学校と地域との対話を重視した取組を継続することが重要である。

施策⑦

安全ボランティアによる見守り活動支援では、ボランティアの高齢化により、地域によっては人員の確保が困難になってきていると感じる。また、学校支援地域本部事業の推進においても、図書館ボランティア、伝統芸能など様々な支援をされている方もあるが、学校支援コーディネーターの設置校数が年々減少している。減少理由としては、高齢化や、取組が定着したことで学校が直接対応されている場合もあると考えるが、平成29年度からは地域コミュニティ組織も正式に始まるので、この機会を捉え支援方法など見直す必要があると考える。なお、見直し・改善の検討にあたっては、実際にボランティア活動に関わっておられる方々とも意見交換を行うなかで検討を行うことで、より充実した内容になるのではないかと考える。

とよおか家族の日の取組では、ロゴマークができたり、写真コンクール、図書館や子育てセンターでの関連事業も実施されているが、家庭によって温度差があり、各学校園、PTA、地域と連携し、継続して周知と啓発に努める必要があると考える。

家読（うちどく）の推進については、図書館には家読コーナーが設置してあり、手作りの「うちどくノート」や推薦図書のリストもあるが、まだ知らない人の方が多いのではないかと感じる。また、「図書館の大切な本を破ってしまったり、いたずら書きをしてしまったらどうしよう」と図書館へ行くことを見合わせている保護者もいると聞いている。本を破ることを心配するよりも、絵本に触れる、絵本に親しむことが大切であるとする。図書館を利用することで本に触れる機会も増え、本を身近に感じ、本が好きになり、さらには、家読を通して家族のコミュニケーションを深めることもできる。「子ども読書の日」「全国読書週間」「とよおか家族月間」にあわせて、学校園、PTA、地域と連携し、家読の推進を行い、家読習慣の定着に取り組んでいただきたい。

子ども野生復帰大作戦の展開では、2015年の事業報告書によると、四季折々にいろいろな地域で活動されていて、今まで見たこと聞いたことのない植物・生き物に触れたり、自捕自食のキャンプのほか、市街地の中を歩くコースもあり、とても興味深い活動がなされている。子どもたちからは、楽しかった、良かった、という感想があり、集団体験、地域の自然文化、伝統を学ぶ貴重な体験ができていると感じた。様々なコースを企画されているが、応募者の少ないコースもあったようなので、企画内容等を検証し、継続した活動となるよう取り組んでいただきたい。

少子化により集団登下校が難しい地域も増えている中、安全ボランティアによる見守り活動は児童の安全確保には必要な手立てのため、継続できるよう検討していきたいと考えます。

学校支援地域本部事業は、9年度目を終え、各種学校支援ボランティアの定着が図られています。また、土曜チャレンジ学習事業も事業スケジュールに沿って事業展開を図ることができました。社会教育分野の両事業は学校区を単位とする地域の協力・協働なくしては成立しません。定着し、また、順調な事業展開をしていますが、平成29年度からの新たな地域コミュニティ組織の状況に合わせ、また、学校・子どもを取り巻く環境の変化に応じた支援方法等の見直しを検討したいと考えます。

年度当初に年間の普及啓発計画を立て、継続して周知・啓発に努めてまいります。特に学校園・PTA・新しいコミュニティ組織に対し積極的に情報提供するなど、連携を図ってまいります。

平成29年2月に策定した「図書館未来プラン」の中でも、子どもの読書活動の推進が必要であるとし、学校図書館への支援や学校での朝読、家庭での家読が重要であるとされています。平成29年度に本館の改修を行い、誰もが長く居たいと思う居心地のよい場所づくりに取り組むこととしています。子どもをはじめ多くの市民の皆様に来てもらえるよう努力します。家読については、本館・分館毎に特色ある取組を進めていきます。

平成29年度は、子どもコースを一部変更し、家族コースも定員を増やしています。参加者が確保できるよう、引き続きPRに努めていきます。

なお、平成29年度で第4期（1期3年間）が終了するため、これまでの事業を総括する中で、次年度以降の対応を検討したいと考えています。

施策④

子どもを守る110番の家等避難場所の周知では、年度初めに教員同伴でしっかり周知がされており、大変良いことである。通学路での地域の安全ボランティアによる見守り活動は、大変ありがたいし、黄色い旗から子どもたちに対する地域の温かさを感じる。あいさつをしたり、声をかけてもらいながら、地域の方と子どもたちが顔なじみになっていくことを期待する。また、日頃からの防犯訓練も必要だと考える。

日頃から地域とのつながりを実感できる貴重な取組です。様々な機会をとらえて地域との関係を深めるよう努めていきます。

〔基本的方向における総括:教育委員会年度末検証〕

“地域から学校へ” “学校から地域へ” の各視点から施策を進め、学校・家庭・地域が相互に連携・協力し、そして協働を図る環境づくりを着実に進めることができた。

次年度以降も、学校園においては学校の取組に対する外部評価や学校評議員会を通して地域の声を活かした学校づくりを進めていくこととし、社会教育分野においては所管課が複数（生涯学習課・こども教育課・こども育成課）にわたっているため、地域全体で子どもを育てる環境づくりのためのビジョンを共有し施策展開を図ることとしたい。

また、各施策の検証にもあるように、継続実施している事業については実施方法等の見直しを行い、より子どもたちにとって有効な施策となるよう実施方法等の検討を図ることとしたい。

年度当初から全小学校区に放課後児童クラブを開設し、放課後留守家庭児童に適切な遊びと生活の場を提供し、子どもたちが地域のなかで安全で安心して過ごせる環境づくりの一役を担った。平成29年度は五荘第2放課後児童クラブの改築整備など開設スペースの確保等を行い、待機児童の解消を図っていききたい。